

講義コード	515102901	
講義名	保育実習Ⅲ	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	矢野 善教	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

1)授業の概要

児童厚生施設を含む児童福祉施設（保育所以外）、障害者支援施設等の役割・機能について、実習を通し、具体的に理解する。既習科目の内容を踏まえ、施設利用者に対する支援、養護（ケア）等について総合的かつ実践的に学習し、施設保育士としての職務内容や職業倫理、保育士としての実践力を習得する。

保育実習Ⅰ（施設）のように実習施設が限定されていないため、社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設等から、実習生自ら実習先（実習施設種別）と実習希望期間をまとめ、「保育実習指導Ⅲ」において担当教員との面談により実習依頼をする。また実習先は保育実習Ⅰ（施設）で指定される施設を含む。

実習時期は受入施設との調整がつけば、授業のある期間を除きいつでも可能である（8月上旬もしくは9月上旬に実施する学生が多い）。実習期間は保育実習Ⅰと同様に実質11日間である。

実習先の選定および実習受け入れ依頼（実習開始3ヶ月前を目途に決定）と実習先の調査（実習先として指定された施設についての学習）。本実習では、主に利用者と生活を共にしながら、生活支援・学習支援・余暇支援・仕事（作業）支援・療育などに参加し、施設保育士の職務や専門性を学習する。またその際には個別面談支援やグループ活動支援など、様々な社会福祉援助技術を用いて実習が行われる。また施設は利用者の生活の場であるため、生活を乱さない配慮が必要であると同時に、高い倫理性が求められる。また自身で考え行動できる主体性が不可欠である。

2)授業の方法

①プレゼンテーションの方法

実習施設において、現職職員による直接的指導となります。

②授業形態

学外実習

③アクティブラーニングの有無

体験学習

④課題に対するフィードバックの方法

実習日誌や実務を通して、現場保育者及び教員より助言・指導が行われる。

実習先の施設において、通所または宿泊により実習を行う。実習には90時間以上参加することが条件である。その内訳は以下の通りである。

実習先の事前オリエンテーション 2時間

本実習 8時間@1日×11日間 88時間

合計 90時間

本実習に先立ち、学内外にて以下の学習および指導を時間割外で行なう。詳細日程については年度初めに「キャンパスカレンダー」の配布により周知する。

5月 施設実習調書記入 90分

実習生としてお世話になる施設様に提出をする書類の記入についての指導を行なう

6月 施設実習説明会

本実習を目前とした時期に、実習日誌の記入確認など実習に臨む準備、事前オリエンテーションに係る依頼連絡の礼儀・方法など、不安なく本実習を行うために指導とそのための説明を行う 90分

10月 実習レポート（提出）

実習を振り返り、学んだこと、印象に残ったことなどをレポートにまとめて提出する。実習事後指導の素材とするだけでなく、後輩達の実習にあたっての重要な教材となる大切なレポートである。レポート作成には180分を想定している。

授業の到達目標及びテーマ

保育士資格を取得しようとする者が選択で行う施設実習科目である。養護施設やケアの技術と知識を深めることを目的とする。加えて福祉施設の社会的なはたらきを総合的に理解することを目指す。したがって本実習に臨む際には、実践的な実習目標および計画を設定し、実行・評価（振り返り）することが求められる。到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、これらの全てを重視して実習に取り組む。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目である。

授業計画表

授業時間外の学修

本実習に臨む前提として、保育実習指導をはじめとする保育士科目や演習の内容を十分に理解しておく必要がある。

実習日誌には、日々の実習の振り返りの記入欄がある。記入をしながら、実習で学んだこと、理解したことなどを整理し、復習とすると良いであろう。概ね30分程度を想定している。また、実習日誌には、学習課題の記入欄がある。復習を終え、翌日の実習に向けた自身の学習課題を整理し、指導者からの助言や実践すべきことなどを予習しておくこと。概ね20分程度を要する。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシー ①③ 自律学習能力の修得	ディプロマポリシー ② 専門的知識・技術の 修得	ディプロマポリシー④ 分析・論理構成・表現力 の修得	ディプロマポリシー⑤⑥ 問題解決能力・協働性の 獲得
------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
実習態度	保育者としての適性を感じられ、現場での実践に必要なとされる協調性と協働性を十分に発揮しながら積極的な態度で実習が出来ている	保育者にふさわしい人間性をもち、積極的な態度で実習が出来ている	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から軽度な課題がある	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から明らかに支援を必要とする判断できる
組織理解	実習施設に関して、事前学習の知識と実習での体験を結び付け、保育者として総合的に理解することが出来ている	実習施設に関する総合的な理解が出来ている	実習施設に関して理解しつつあるが、体験からの考察が不十分である	実習施設に関する理解が不十分であり、支援をしながら十分な理解を目指す必要があると判断できる
利用者理解とかかわり	事前学習の知識をもとに、積極的な参加を通じてかかわりや記録による豊かな考察により、利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かかわりや記録から利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かかわりや記録から利用者の実態や課題を考察しようとする態度はあるが、不十分である	利用者の実態や課題を考察する上で、支援を必要とする課題があると判断できる
実習目標の達成度	自ら立てた実習目標を5つ全てにおいて達成している。	自ら立てた実習目標を3～4つ達成している。	自ら立てた実習目標を1～2つ達成している。	自ら立てた実習目標を未達成と判断できる。

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	0%	
小テスト等	0%	
成果発表	0%	
授業への貢献度	20%	実習への取組み状況及び実習日誌
レポート	10%	実習後に振り返りレポートを提出する。
その他	70%	実習施設による評価 (総合評価・5段階及びコメント)

課題へのフィードバック方法

--	--	--

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
ICTを活用した双方向型授業の内容		
アクティブラーニングの割合		
アクティブラーニングの内容		
書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
教科書		
なし		
参考書		
『福祉施設実習テキストブックー子ども・利用者理解からはじめる実践ー』 建帛社		
SDGsとの関連		
1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに		
特記事項等		
①実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。		
②科目のナンバリング SPR2305		
③その他の特記事項 特になし		
③その他の特記事項 特になし		
学生へのメッセージ		
保育所や幼稚園、こども園と違い、実習先には成人の利用者の方々も多くいらっしゃる場合があります。慣れない環境での実習に戸惑いや緊張は当然あるでしょうが、実習前には皆さんが不安・不明に感じる点についてどのようなことにも一緒に考えていきます。研究室に相談に来てください。事前の説明会等には必ず出席・参加をするようにお願いします。		
研究室（訪問先等）		
中央研究棟 2階 220研究室（矢野研究室） 213研究室（久野研究室） 平日の授業時間以外は概ね在室しているので、気軽に質問に来てください。		
電話番号		
028-667-7111（代）		
授業用E-mail		

yoshinori@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

試験 0%

レポート（実習後にレポートを提出する） 10%

平常点 0%

その他（実習施設による評価（総合評価・5段階及びコメント）） 70%

（実習への取組み状況及び実習日誌） 20%

以上により総合的に評価する